



JHFレポート

3月号

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1999年

3月17日は JHF 総会と役員選挙投票の日です

JHF レポート2月号でお知らせしたとおり、次期 JHF 役員選挙が行われます。

改選役員数は、理事が6名以上11名以内、監事が2名以内。2月12日に立候補を締め

切り、2月25日に立候補者公示。3月17日、JHF 総会会場で、正会員(都道府県連盟)が投票する予定。

総会の会場は、東京の羽田空港ターミナ

ルビル・ビッグバード、シリウスの間。13時から17時まで。議題は、1999年度 JHF 事業計画及び予算案について等。総会の資料は前もって正会員に送られます。

ポイントシステム 1998 年ランキング発表

ハング&パラグライディング各ポイントシステムの1998年ランキングが発表されました。成績がよかった人も、ちょっとがっかりの人も、今年また頑張ってください。

HG ポイント上位者

1位	峰岸 正弘	160.21 ポイント
2位	外村 仁克	157.62 ポイント
3位	大沼 浩	155.16 ポイント
4位	大門 浩二	153.93 ポイント
5位	鈴木 博司	151.07 ポイント
6位	波多野康雄	149.63 ポイント
7位	菊池 守男	147.18 ポイント
8位	阿部 貢造	144.58 ポイント
9位	平林 和行	138.45 ポイント

10位 今嶋 功 134.35 ポイント
PG ナショナルポイント上位者

1位	扇澤 郁	306.7 ポイント
2位	蔭山 健司	298.3 ポイント
3位	川地 正孝	282.9 ポイント
4位	加藤 豪	266.2 ポイント
5位	松原 正幸	262.8 ポイント
6位	辻 強	248.8 ポイント
7位	只野正一郎	230.7 ポイント
8位	武尾 拓	173.3 ポイント
9位	長島 信一	157.2 ポイント
10位	若山 朋晴	144.4 ポイント
女子1位	田中美由喜	113.8 ポイント
女子2位	神山 和子	108.8 ポイント

女子3位 山本富士美 96.4 ポイント
女子4位 水沼 典子 81.3 ポイント
女子5位 穴井久美子 75.4 ポイント
PG-SPS シリーズ上位者

1位	松本 一郎	226.0 ポイント
2位	田中 和男	200.3 ポイント
3位	石鍋 修	154.5 ポイント
4位	長田 修一	137.0 ポイント
5位	穴井久美子	124.0 ポイント
6位	松村 浩之	102.5 ポイント
7位	野崎 葉子	101.0 ポイント
8位	三嶋 康明	100.0 ポイント
9位	吉川 哲嗣	98.3 ポイント
10位	松原 彪	97.3 ポイント

委員会の動き

PG 競技委員会 委員長 岡 良樹

今年7月、オーストリアで開催されるパラグライディング世界選手権の日本代表選手が決まりました。オーガナイザーからの正式なエントリー申し込み書がまだ来ていないので、はっきりとは言えませんが、男子6名、女子2名、計8名のチームになる予定です。代表選手の氏名は、下記のようになっています。都合で参加できない人が出た場合は、ポイント順位で次の人が繰り上がります。

日本代表選手：扇澤郁、川地正孝、加藤豪、松原正幸、蔭山健司、只野正一郎、田中美由喜、神山和子、以上8名。

気象条件に恵まれ、これまでの経験を生かし、思う存分フライトし、良い成績を残して欲しいと思います。

HG 競技委員会 委員長 大澤 豊

「ハンググライディング日本選手権 in 広島」が、広島県神ノ倉エリアで、3月21日から27日まで開催され、クラスの大会も併催される予定です(ただし選手が10名以上集まった場合)。日本選手権期間中は現地にHG競技委員会委員がおりますので、1999年新ルールに関して質問がありましたら、遠

慮なくお問い合わせください。

今夏、イタリアで行われるハンググライディング世界選手権の日本代表選手が、98年世界選抜ランキング上位者から、次の6名に決定しました(2名辞退により繰り上がりあり)。

日本代表選手：峰岸正弘、外村仁克、大門浩二、鈴木博司、波多野康雄、大沼浩、以上6名。

世界選手権初出場の2名(波多野・大沼)を含む選手の活躍に期待してください。

2月17日～21日開催の「HANGGLIDER 関西選手権99」の結果は、HG競技委員会のホームページに掲載します。<http://tomato.saino.ne.jp/~haku/JHF-HG.html>

教習検定委員会 委員長 島野 広幸

1月20日に委員会を開催しました。タンデム技能証の検定会実施に向けて、具体的な日程と内容を検討。今までネックになっていた、タンデムフライトの賠償保険についても、ある程度の回答が得られたので、今年の夏頃にはタンデム技能証をスタートする予定です。

初めの段階として、まず JHF 教員対象の特別検定会を行います。なるべく広く普及させるため、検定会場は全国15ヶ所を設定

しました。このタンデム技能証特別検定会でタンデム技能証を取得した JHF 教員が、その後のタンデム技能証の検定を行うことができます。

空のかお

その18



魚住 弘(うおずみ ひろし)さん
ハングがやりたかったのだが、まずパラを始めた。4、5年楽しみXCまで取ったが、「やはりハングがやりたい!」と取りくんだのが63歳。ついにハングのXC証も取得。クロカンのチャンスをじっくりと狙っている魚住さんは、この2月で67歳になった。

以下は当該事故の発生時、エリアで指導にあたっていた教員の状況説明を要録したものである。(1998年7月16日の定例委員会で聴取)

ハング/パラグライダーの別: パラグライダー

発生日時: 1998年5月28日 13:00頃

発生場所: 群馬県

事故者:(年齢、性別、技能証等): 48歳、女性、パイロット証

事故の経過:

- ・午前中は風が弱く、南東上空に雲が発達、吸い上げがあり、11:50頃から風が強まる。
- ・無線で、メインランディングへ向うこと及びアクセル使用しないし翼端折りをを行うよう指示。
- ・パイロットはアクセルを30分ぐらい踏み込んでいたが、足が疲れてあきらめたのか

どんどん流されはじめる。

- ・メインランディングへの到達は不可能と判断したランディングディレクターが、ツリーランもしくは十分に広い場所を選び早めに降りよう、無線アドバイスする。
- ・メインランディングから西北西約4.5km離れた、送電線が横切る耕地整備中の場所に流されてしまう(以前下見したことがあるらしく、その地点を目指したのかも?)
- ・一番下の高圧線(対地高50m)に引っ掛かり、その後下の畑に落下。
- ・現場へ向ったスタッフが救急車を手配し病院に収容。翌5月29日13:00過ぎ死亡。
- ・死因は肝臓破裂。足の骨折あり。外傷はなし。
- ・事故者はサンデーフライヤー。5月中は飛べない日が続き当日は5月に入って2回目の飛行であった。

事故の概要:

- ・目撃者あり(現場作業員)
 - ・高圧線に引っ掛かって2~3分後、レスキューパラシュートが開き落下した。
 - ・地上で風に引きずられ道路の側溝に落ちて停まる(引きずられた痕跡が残されていた)
 - ・現場は地形が谷間で風が収束しており、当時の風速は7~8m/sであった。
 - ・事故機の対地速度は70km/h以上で、追い風を受けたまま高圧線に接触したものと推定される。
 - ・ハーネスはフロントレスキューのエアバッグ式。電線上でエアバッグが外れた模様。
- 考えられる原因:
- ・強風下での翼端折りができなかった。
 - ・機体が新しいため、着木をためらった。

日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC)議事録

1998年度第9回委員会

日時: 1998年12月17日(木)13時~17時

場所: 航空会館6階602会議室

出席委員: 阿部郁重、斎藤紀、岡良樹、小宮國男、幸路尚文

委任状 下山進、泉秀樹

機体登録申請者:(有)ジェネス

技術部門(型式登録審査)

パラグライダー・新規登録

・アドバンス式 シグマ 4-25型(合格:PI-656)

・アドバンス式 シグマ 4-27型(合格:PI-657)

・アドバンス式 シグマ 4-29型(合格:PI-658)

・GRADIENT式 SAPHIR-26-98型(合格:

PI-659)

・GRADIENT式 SAPHIR-28-98型(合格:PI-660)

ハンググライダー・新規登録

・SEEDWINGS-Europe式 Viper-159型(合格:I-169)

定例委員会

議決及び合意事項なし

事故を考える 己の身の丈を知る

最近耳にしたパラグライダーの事故が気になる。派手にキャノピーを振り回し、最後はビタリとランディングをきめる.....はずだったのに、ミスをして負傷してしまったという。本人には気の毒だが「やめときゃいいのに」である。

人間誰しも、注目されたい、目立ちたいという気持ちはどこかにある。だから、どうせ飛ぶならカッコイイところを見せようと考えるのは、ごく自然なことだろう。機体をブンブン振り回して「すごい!」といわれるのは、かなり気持ちのいいことに違いない。しかし、「すごい飛び」イコール「派手な飛び」なのだろうか。

そもそも空を飛ばすのではないヒトという種が、決まりに背いて飛ばすのだから、どんなフライヤーも翼を持つための努力をしなければならぬ。フライト経験を積み、知識をふやし、自然を読む目を養う。その蓄積が素晴らしいフライトを生む。本当にすごいフライヤーというのは、常に学び続け前進し続けている。そんな人が、空気の流れが見えているかのように、自信に満ちたコース取りをし、体の一部になってしまっている機体を軽々とコントロールして、無駄な動きをせずに飛ばす様子は、とても美しい。同じ人間として「よくぞここまで」と思う。アクロバティックフライトは、見る者に強い印象を与える。確かに、カッコイイ。しかし、派手に機体を振り回さな

くても、「すごい!」と思わせることはできるのだ。無理をして歯をくいしばる必要はないと思うのだが.....。

すごいと思われたくてやってるんじゃないよという人がいるかもしれない。自分の限界を知りたいのか、それとも機体の限界を知りたいのか。あるいは頭の回線が切れたアブナイ人を演じたいのか。はたまた本当にキレているのか。いずれにしろ、たいへんなリスクを背負っていることが、わかっているのだろうか。パラグライダーにしろハンググライダーにしろ、アクロバット飛行のためには作られていない。メーカーもそれを明示している。それを知りながら何故わが身を危険にさらすのか、理解できない。

アクロバットのひとつもできないと恥ずかしいから練習しなきゃいけないと思っている人は、挑戦する前に、己の力をよくよく考えてほしい。十分な高度さえあれば誰にでもアクロバットができるわけではない。振り回している最中に、機体がどんな状態になっても対処できる技術と知識を持っていなければ、命を自ら捨てるに等しい。急激にかかる大加重にも負けず、冷静に適確にコントロールを続けることができないなら、自分で自分の首を締めることになる。グリグリと派手に機体を振り回したあげく墜落して死んだりケガをすることがあったら、周囲の人間にどれほど大きな迷

惑をかけることか。場合によっては、そのエリアがクローズに追いこまれたり、親身に世話をしてくれたインストラクターが訴えられたりするのである。

それでも、あなたはアクロバティックフライトをしますか。

一瞬の躊躇もせずにハイと答えたあなたは、よほど自信があるのだろうか、自他ともに認める実力なのだろうか。自分だけが何でもこい!と思っているのではないだろうか。正しく自己判断するのは、誰にとっても難しいことだが、どうか、己と向き合う勇気を持ってほしい。他者の言葉に耳を傾ける余裕を持ってほしい。

いつまでも自分が望む限りフライトを楽しむためには、何より安全が大切だ。己の身の丈を知り、無理をせず、一步一步着実にステップアップしていくなら、そして自然の強大さを理解し、知識を吸収し、常に余裕を持って飛ばすなら、あなたは長寿フライヤーになれるだろう。

パラグライダーやハンググライダーで飛んでいる人は、「自由なのが好き」だから飛んでいるのだろう。それなのに、アレをしちゃいけない、コレをしちゃいけないといわれるのは心外かもしれない。だが、それぞれが好き勝手なことをするのが、自由ということだろうか。そうではないことを誰もが知っているはずだ。

広報出版局 松田 保子

北海道ハンググライディング連盟

毎年数回、JHFと北海道スカイスポーツ協会が開催している、安全講習会のスカイスポーツ講演集が200円で発行されました。小野寺久憲氏「気象情報と応用上昇気流と飛行の実際」、田中栄一氏「安全に飛ぶ、上手く飛ぶための秘訣」の講演、他に道内フライヤーの講演2件が収録されています。

ご希望の方は、切手200円分を同封して下記にお申し込みください。

また、北海道のエリアガイド「パラ、ハングガイドブックイン北海道」も送料120円で発送しております。

吉野正規
〒060-8676 札幌市中央大通西4丁目
道銀ビル(社)北海道スカイスポーツ協会
TEL.011-232-4347

青森県ハンググライディング連盟

先日、関東方面のフライヤー仲間の奥様から青森まで電話があった。「急用で旦那と連絡取りたいが、携帯も繋がらないし行先の電話番号も不明。何とかならないだろうか」とのこと。奥様の大変な様子から、私は心当たりのフライヤー仲間に電話。リレー式で情報を受け、4人目で現地の別のフライヤー仲間に繋がり、その事を奥様に連絡し情報を伝えた。

全国に広がるフライヤーの仲間。フライト活動以外でも、このような「ホットライン」を大切にしていきたいと痛感したできごとでした。ご協力いただいた皆様方、ありがとうございました。

古川正司

宮城県ハンググライディング連盟

我が宮城県も他県にもれず冬真っ最中。方々の川原や沼が、白鳥等渡り鳥の見物人で賑っています。今月は取り立ててお伝えするニュース等がなかったので、昨年9月6日に県連主催で開催した体験講習会の参加者内訳と、講習生から体験後にいただいたアンケートの集計を公表します。各県連

の体験会担当の方は、ぜひ、ご参考の程に。

川越敏明

参加者内訳 表1を参照

アンケート集計(121名中104名回答)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	2	18	9	11	3	3	1	47
女性	3	44	2	7	0	1	0	57

Q1: 今回の体験講習会をどのようにして知りましたか?

新聞で.....35

河北新報〔朝刊〕.....4

〔夕刊〕.....15

〔両方で〕.....16

TVで.....7

NHKで.....5

ミヤギテレビで.....2

ポスター・パンフレットで.....38

ポスター...21 スクール...1

観光地.....6 スポーツ用品店...9

職場.....1

友人・知人・職場の同僚から.....40

Q2: 初めてのハング・パラグライダー体験の感想は?

表1

性別	職業別	年代別							職業計
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	
男	会社員		13	5	6	1			26
	公務員		3	4	4	1			12
	学生	3	3	1					7
	自営業		1		1	1			3
	建設業			2		1			3
	医師				1				1
	無職						3	1	4
不明			2					2	
年代別計		3	20	14	12	4	3	1	57

女	会社員		24	2					26
	主婦		3	1	5				9
	学生	3	4						7
	公務員		8		2				10
	看護婦		2						2
	保母		2						2
	契約社員		2						2
	フリーター	1	1						2
	無職		1				1		2
不明		2						2	
年代別計		4	49	3	7	0	1	0	64

年代別計(男女)	7	69	17	19	4	4	1	合計121
----------	---	----	----	----	---	---	---	-------

大会報告

第10回丹沢スカイグランプリ(HG)

1998年12月30日～1999年1月3日

神奈川県秦野市丹沢山系

- 1位 外村 仁克 大阪府 3515.0点
- 2位 藤田 直己 東京都 3295.0点
- 3位 波多野康雄 兵庫県 3237.0点
- 4位 鈴木 博司 三重県 3242.0点
- 5位 阿部 貢造 千葉県 3190.0点
- 6位 大門 浩二 茨城県 3099.0点

女子の部

- 1位 香川 祥子 大阪府 1641.0点
- 2位 春山 和美 奈良県 1403.0点
- 3位 井手 有生 大阪府 1337.6点

正月のハンググライディング大会といえは「西富士」だったが、今年は「丹沢スカイグランプリ」の日程を少し早めて、10回目の

記念すべき大会を年末年始に開催した。

今大会から新ルールを採用。最初にゴールした選手にボーナス点がつき、50Kmを超えるタスクでは一定基準をクリアすればボーナス点がつくという、わくわくするようなルールとなった。競技は、2日目のみキャンセル。初日に50名、3日目33名、4日目6名、そして最終日には66名もがゴールするスピードレースとなり、初ゴール者が続出した。

結果は、ゴール者が少なかった4日目も2位のタイムでゴールし、トップに立った外村選手が、最終日に1000点を取って逃げ切り優勝を飾った。

楽しかった.....98

想像したより易しかった.....27

想像したより難しかった.....35

簡単だった.....3

難しかった.....5

その他.....1

・風の抵抗(影響)が大きかった

Q3: 今後ハング・パラグライダーを本格的に始めたいと思いますか?

始めたい.....25

考えてみる.....75

しないと思う.....2

その他.....4

・機会があれば(体験会などの)

・金銭的な面で

Q4: 宮城県内のスクール・エリアを知っていますか?

知っている.....34

オニコウベ...8 泉ヶ岳...7

七ヶ宿.....2 蔵王.....1

知らない.....66

県内スクールガイドがほしい...19

いらない...2

事務局からお知らせ

助教員検定会の開催について

JHF助教員検定会を開催する際は、予定日の1ヶ月以上前に、開催連盟理事長名で、JHF事務局に開催申請書を出してください。開催承認書、申請書、報告書を事務局から検定員に送付します。

教員研修検定会の参加資格について

JHF教員研修検定会に参加できるのは「助教員技能証の交付日から1年を経過」している方です。1999年度に参加する場合は、98年8月31日までに交付の助教員技能証を持っていることが必要。

技能証の再発行について

技能証再発行を申請する場合は「再発行依頼書」「申請用紙(再発行に)」の2枚と再発行申請料をお送りください。

日本財団助成資金による「全国無料体験講習会」は、とりあえず終了した。来年度以降、この活動がどんな方向へ進んでいくのか見当もつかない。最終報告の前に、この事業に携わってきた私の反省と行動を回顧し、報告したい。

3年前のある日 JHF に呼ばれて

神奈川県ハング・パラグライディング連盟で普及活動にあっていた私は、3年前 JHF に呼ばれ「普及活動の委員長をやってくれないか」と言われた。日本財団から待望の助成資金が導入されることになったのだ。その経緯は、前年退任された渡辺良一事務局長から聞かされていたが、全国へ配布するマニュアルの作成には、あと1ヶ月余りしかない差し迫った時期だった。競技以外で JHF が開催する全国規模の統一事業は過去に例がなく、どうしても成果をあげたいと説明された。この事業を推進するのに私はうってつけの人間だったらしい。

多数の市民に理解してもらうためには

私が神奈川県連で普及活動を精力的に行っていたのには訳があった。

昔、飛んでいた箱根の矢倉岳が奇妙な事件で閉山し、次に参会した松田山エリアもつまらないトラブルが原因でクローズに追い込まれた。そのきっかけとなった新聞記事を読むと、我々がまるで空の暴走族であるかのように受けとれた。もちろん、そんなことはない。しかし、記事を書いた記者もそれを読む市民も、空など一度も飛んだ

ことはなく、報道された情報がまったくの一方通行になってしまうのは、仕方のないことだった。

そんなことから私は「飛ばない愛好者」の増大も必要なのではないかと考え、有志を募り、スクールの体験コースより簡単で、多人数を指導する神奈川方式の無料体験会を開始した。

普及とフライヤー増は別の話

マラソンやバレーボールのようなメジャースポーツがテレビ放送される理由は、自分では競技しないファンが茶の間にいるからだ。我々のスカイスポーツには、「飛び人間」以外のファンはいないに等しい。

「JHFの普及は普及じゃない」という批判も聞いた。「大金を投じて新規フライヤーが増加しなければ何のための普及か」と言われれば、返す言葉もない。当初、神奈川県連もこの活動で「普及活動、即、スクール生の増加」という期待があった。が、その二つは結びつかなかった。むしろ神奈川は、斜面を使った体験会を無料で開催することは、既存のスクールに対する営業妨害になるという発想にいたった。

伝えきれなかったコンセプト

全国47都道府県連盟はJHFの支部ではなく独立した連盟であるため、それぞれ独自の運営方針と見解を有し、私は神奈川方式の体験会を押し付ける意志はまったくなかった。それでも、普及活動における「共通する価値観」の確認や、マニュアルの解説

を、総会などの場で行う機会を要望し続けた。しかし、一度としてそのチャンスは与えられなかった。「全国無料体験講習会」の普及活動事業は、常に会議の一番最後の議題として取りあげられたため、時間切れとなってしまったのだ。

価値観の共有そしてこれからの普及

当然のことながら、我々が今後さらに発展していくためには、JHFと都道府県連盟、そして全フライヤーが、同じ価値観(認識・見解・連帯感・モラル等)を共有して行動する必要があると考えられる。そのためには、まず第一にJHFの積極的な情報公開が不可欠だ。たとえば、ホームページに教員名簿が掲載される以前に、スクール生が、自分を教えてくれている人間が本当にJHFの教員なのかどうか知る手段はなかった。また県連盟にはMPG技能証名簿がなく、県連会員以外の誰が技能証フライヤーなのか、本人に確かめる以外、見分ける方法はなかった。

これまで、普及活動を行う時、そのコンセプトは各開催連盟に委ねられてきた。今後それは変わらない。まして県連には県連の事情があり、普及活動にはそれなりの経費もかかる。

ただ、もう一度、初めて空に浮いた自分を思い出してほしい。「あの感激を無償の行為として人に伝えたい」という、そんな情熱だけで普及活動を続けることは、不可能だろうか。

全国無料体験講習会を振り返って 2

1995年に社団法人になったJHFは、公益法人として、一般の人たちを対象にハング・パラグライディングの体験講習会を全国展開することにしました。当時の理事や事務局の熱心な働きかけのおかげで(財)日本財団の後援を得ることができ、年間320万円の財団からの助成金を軸に、96年度からスタート。開催を希望した都道府県連盟が主管し、それぞれのスタイルで行うことになりました。

初年度の実績は、17地区(都道府県連盟)で22回、1307名参加。97年度は、24地区で30回、2448名参加。98年度実績は、普及事業推進室がまとめているところですが、前年度以上の実績をあげられたようです。

3年続けて全国で開催し、地域の恒例行事として定着しつつある体験講習会です



が、残念なことに、日本財団の後援は98年度で打ち切りとなりました。年間320万円の助成金がなくなる99年度からは、この事業をどのようにしていけばいいのか、今のところ手探りの状態です。

後援打ち切りがはっきりした98年春、普及事業推進室は、普及活動の根本的な見直しのため、全国47都道府県連盟に対しアンケートを実施しました。回答した県連は28。「体験講習会が普及活動に寄与していると思いますか」という問いに、11連盟が「おおいに普及活動に役立っていると思う」と答え、「やらないよりはマシだと思う」と8連盟、「経費のわりに普及・波及効果があるとは思えない」が7連盟でした。実績のわりに否定的な回答が多かったのが意外ですが、これはどんなことを『普及』と考えるかによります。体験講習会の参加者がその地域のスクールに入って本格的に飛び始めることを『普及』と考えるなら、やらないよりマシかなァということになるでしょう。また、ハング・パラの理解者をふやすことが『普及』につながると考えれば、おおいに役立っていると思えるでしょう。

「補助金がなくなっても無料体験会等を実施できますか」という問いには、13連盟が「独自でも実施していくつもりでいる」

と答えました。「補助金がなければ実施は難しい」が12連盟。確かに体験講習会を開くには、ある程度お金がかかります。都道府県連盟の予算でこれをまかなうのはたいへんでしょう。それなら、地元の市町村、都道府県に働きかけたらどうでしょうか。「地元はスカイスポーツに理解がないからダメだね」とあきらめる前に、理解してもらおう努力をしてきたかどうか、振り返ってみませんか。

*

各体験講習会で実施されたアンケートによると、参加者のほとんどが「楽しかった」と答えています。本格的に飛びたいと思った人は、かなりの割合になります。時間やお金の都合で、飛びたいと思った人が全員飛び始めることはないでしょうが、この人たちが家族や友人に体験したことを話してくれるだけでも、ハング・パラグライディングにとって、大きなプラスでしょう。

以下に参加者の感想を紹介します。

パラグライダーはおもしろかった
松野大二郎(まつのだいじろう)君

大二郎君は小学4年。お兄さんの浩太郎君(高校1年)と一緒に、98年11月、熊本県フライヤー連盟の体験講習会に参加し

CIVLって何だろう●

CIVLって名前は知ってるけど、何を
ところなのかよくわからないな……という
人は少なくない。そこで、JHF 海外局担当
理事で、日本のCIVL委員(デリゲート)と
して活躍する小林朋子さんに、何をして
いるのか話してもらった。

ちなみに、CIVLというのは、フランス語
で「自由な翼の国際委員会」の頭文字を並べ
た名前。自由な翼は、もちろんハング&パ
ラグライダーのこと。フランス語ではなく
英語の名称にしようという案も出ていま
るか。

CIVLを構成しているのは、どんな人た
ちですか。

国際航空連盟(FAI)の中には、たくさん
の委員会があって、ハンググライディング
の委員会がCIVLです。各国のハングとパ
ラ関係の団体の人が、その国の代表として
CIVLの会議に出てきます。私もその一人
で、JHF理事会でCIVL委員として選出さ
れました。

CIVLの役員は、各国の委員が投票して
決めるんですね。

CIVLの定例会議は年に一度、3月に開か
れるんですが、その時に役員が投票があっ
て、委員長、副委員長、事務局、会計、広
報担当などが選ばれます。現在の委員長は
フランスのオリビエ・バーゼルという人
で、副委員長の一人はフィンランドの女性
です。

どんなことを話し合うんでしょう。

主に安全と普及に関することです。会議
は3日間で、1日目は前回からの課題を話し
合うほか、会計報告などがあります。2日目
は分科会で、プロトタイプパラグライダー
のライン切れとか、GAPスコアリングシス
テムとか、いろいろなことを検討します。
委員はそれぞれ興味のある分科会に出席す
るわけです。昨年、私はスポーティングコー
ドの分科会と、ワールドエアーゲーム開催
立候補国へのインタビューという分科会に
出席しました。そして、最後の3日目に、各
分科会の報告と役員選挙があります。あと
は、3シーズン先の世界選手権などの開催
地を決めたり。開催地として立候補してい
る国が、きちんと国際大会を運営できるか
どうか判断するのも、CIVLの役目の一つで
す。それから、世界記録の管理もそうです
ね。

もうすぐ3月、今年のCIVL会議はどこ
で開かれるんですか。

今年は、3月5日から7日まで、デンマー
クのコペンハーゲンで開かれます。日本を
代表する委員として、今回も私が出席する
ことになりました。昨年はポルトガルで開
かれたのですが、なじみのない国だったの
で戸惑うこともありました。今回も知らな
い土地ですけれど、二度目の出席だから少
しは余裕が持てるかなと思っています。

今回はどんな議案が出ているんですか。
1月末にCIVLから届いた文書によると、

まず「大陸選手権とワールドエアーゲー
ムズと世界選手権の開催について」です
ね。これは、国際大会を数多く開催するの
は、主催者にも選手にも大きな負担にな
るので、国際大会を整理して効率よく開
催しようという主旨です。次に「競技会
における安全性について」で、競技会での
安全性を高めるために新しい基準を作りま
しょうということ。参加選手の制限、タ
スク決定の新基準、レスキュー態勢の整
備、機体の安全性基準などの制定につい
て、話し合うことになりま
す。あと「競技会に参加するハンググ
ライダーの安全性基準について」、「パ
ラグライダーのマイクロライン切れ問題
の解決策について」。他にも、スコア
リングシステムの検討とか、FAI表彰者
の決定とか、いくつかあがっています。

日本から提案することはありますか。

昨年、JHF理事会、正会員、各委員会
に、提案事項があれば呼びかけたので
すが、今回は特に出てきませんでした。

フライヤーが何か提案したい時は、ど
うすればいいですか。

まず、都道府県連盟を通して理事会に
文書で提出してください。理事会が「こ
れはCIVLに提案すべきだ」と判断す
れば、CIVL委員に伝えられます。CIVL
なんて自分に無関係と思いきや、身近な
組織だと考えて、気軽に意見を出して
もらえたらいいですね。

インタビュー：広報出版局 松田 保子

ました。お父さんとお母さんは撮影担当。
家族みんなで心から楽しんだそうです。

パラグライダーは、はじめわむずかしい
とおもっていましたが、やってみたらかん
たんだったのでおもしろかったです。また
やりたいです。(原文のまま)

お母さんの添え書き きのうは大変お世
話になりました。インストラクターの方
々は全力で講習のみんなを飛ばせてあげ
ようと、一生懸命に取り組まれているの
がよくわかり頭が下がる思いでした。浩
太郎と大二郎、二人とも帰宅してから
も「今日は楽しかった、お母さん、ま
た連れて行って」と言っていました。(一
部略)

無料体験講習会から大空へ
寺田正直(てらだまसान)さん

寺田さんは97年11月の東京都ハング
パラグライディング連盟の体験講習会に
参加しました。その後、関東近郊のパ
ラグライダーズスクールに入校。昨年、
念願の高高度フライトを果たし、現
在B級取得を目指して練習中です。

子育ても一段落したので、何か今
までとは違うスポーツに取り組んで
みたいと思っ

ていました。「空を飛んでみたい」とい
う気持ちから、モーターパラやライト
プレーンにも興味があったのですが、
新聞で無料体験会の記事を見て参加
させていただきました。体験会では
インストラクターの方に、とても熱
心にご指導いただいたことが印象
に残っています。主にライズアップ
をしたのですが、今から思えば風も
無く、キャンビーを引っ張って走
り回るばかりで、とにかく疲れまし
た。「ふんわり浮く」といった感じ
もなく、「これで本当にとべるのだ
ろうか」と思ったり。しかし会場
で行われたモーターパラのデモ
飛行を見て、「本当に飛ぶんだ!」と
実感しました。

体験会を終えた私は、「もっとや
ってみたい、飛んでみたい」と思
い、当日いただいたパンフレットを
参考にパラグライダーズスクールの
1日体験コースを受講しました。体
験会では風が無くとても快適な
ので、「風は強い方が良い」と思
いこみ、とんでもない強風の日に
出かけたら、「今日ではできない」と
いわれたりもしました。何回目か
についに足が地面から離れたとき
には感激でした。この経験で「自
分にもできそうだ」と思いさっそ
くA級コースに入門しました。A
級に合格した時には、「高高度
フライト」をやり遂げられるの
ではない



かという自信が出てきました。そして高
高度を飛んだときは感動でした。時間
はかかりましたが、何事もあきらめず
にやればできるんだと思いました。体
験会でお世話になったおかげで、こ
のすばらしいスポーツの仲間入り
ができ、心から感謝しています。こ
れからもたくさんの人に空を飛ぶ
魅力を伝えてあげてください。私も
内心は心配しているのに空を飛ぶこ
とを許してくれる家族のためにも、
安全に長くパラグライダーを続け
ていきたいと思っています。

*

松野大二郎君とお母さんの文章は、
熊本県フライヤー連盟への礼状から
いただきました。お母さんの明子
さんが「子どもたちも、他の参加
者も本当にいい表情をしてまし
た」といわれたのが心に残って
います。



「バリオ無しのフライトが優勝の秘訣?!」 補助動力付パラグライディング日本選手権者 萩原光さんに聞く



前回の3位入賞から今回見事、日本一の座に着いた萩原光さんにインタビューしました。

補助動力日本一おめでとうございます。まずは率直な感想をいただけますか。

本音を言うか勝てるのではないかと、という自信もありました。前回は初日トップだったのに2日目に失敗してしまい、結局3位だったので、今回は狙っていました。それに補助動力は競技の歴史も浅いし、まだ競技人口も多くないので、私にもチャンスがあるのではないかと考えていました。

前回と優勝した今大会の違いはどんなことですか。

計器を持たずにフライトしたこと、これが一番の違いです。前回の失敗は、高度計狂いが原因でした。コンディションの読みは間違っていないはずなのに、高度計の数

値を見て飛んだらまったく外れてしまった。それならと、今回は計器無しでフライトしたのがうまくいきました。

タスクでフライト高度が決まっている時などはどうしたのですか。

他の機体を見て飛びました。計器を見て飛んでいる人は、規定の高度から外れませんか、同じ高度を飛ばせば良いわけですから。それにサーマルコンディションではなかったために、バリオも不要でしたから。

日頃、競技のためのトレーニングはするのですか。

もちろんです。競技会のタスクを理解してそれにあったトレーニングをしています。補助動力もハングやパラと同様に、総合的な状況判断と技術が必要です。スピードレースだからと言って、エンジンを吹かしているだけでは、高度ばかり上がってしまいます。アクセルやトリムの使い方などコントロールして、最良のフライトをするのです。そういう点ではハングやパラを長い間飛んできた経験が、役に立っています。

これから大会に参加する人にアドバイスををお願いします。

タスクを理解し日頃から練習することで。補助動力だけを飛んでいる人は、エンジンカットして飛んだりランディングすることは少ないと思います。でもこれがタスクになるとしたら、普段から練習する必要があります。

また私は今まで、ハング、パラも含めてたくさんの方に出てきました。数多くの大会に参加して「大会慣れ」することも大切だと思います。

最後にこれからの抱負を。

やはりFLMのタイトルも獲りたいですね。それにパワードのハングのタイトルと、補助動力ハングで計4冠ですか。そんなことができれば夢のようです。これからは補助動力で育った人も、どんどん力をつけてくると思うので楽しみです。実を言うと最近パワードハングの練習もしてるんです。私は本気ですよ!

インタビュー：広報出版局 宮沢 明

第1回東京ベイ MPG ミーティング in 富津

千葉県富津海岸でモーターパラグライダーの大会が開催されます。補助動力の大会は、まだ始まったばかり。主催のスカイエンジェルでは、とかく問題になりがちな騒音などモラルの面も含めて、真面目に競

技に取り組みたいとのこと。腕試しに、技術向上に、参加してみたいはかが?

日程：1999年3月21日(日)・22日(振替休日) 会場：千葉県富津市富津岬海岸 主催：第1回東京ベイ MPG ミーティング in

富津実行委員会 TEL.0439-55-1123 参加資格：フライヤー登録有効でPG補助動力証所有者、その他 参加費：8,000円 申込締切：3月1日(月) 競技種目：スピード&ターゲット他

大会開催予定(1999年1月25日現在)

PS：ポイントシステム対象(ポイントシステム対象、公認については申請を含む。) 参加資格 XC：クロスカントリー証 P：パイロット証 NP：ノービスパイロット証 B：B級練習生参加可 会員：都道府県連盟に属する者



区分	大会名	日程	開催地	参加資格	参加費	締切
公認	1998年度全日本学生パラグライダー選手権	3/15~19	紀ノ川フライトパーク	NP・学連	15,000円	2/15
	〒606-8221 京都府京都市左京区田中西樋ノ口町20-6 東海ハウス302 大工智彦 TEL.075-703-7489					
公認	パラグライダー雲辺寺カップ 99	3/20~22	ウインドパーク雲辺寺	P・県連	5,000円	2/28
	〒769-1600 香川県三豊郡大野原町大字西間字丸井 雲辺寺ロープウェイ内(島本) TEL.0875-54-4968					
公認	Coo パラグライダーオープンカップ	3/20~22	エアーパークCoo	XC	20,000円	3/11
PS	〒315-0157 茨城県新治郡八郷町上曾1698-1 Cooパラグライダーオープンカップ実行委員会 TEL.0299-44-1408					
公認	Coo パラグライダーズスプリングカップ	4/3・4	エアーパークCoo	XC	10,000円	3/25
PS	〒315-0157 茨城県新治郡八郷町上曾1698-1 Cooパラグライダーズスプリングカップ実行委員会 TEL.0299-44-1408					
公認	99 立山らいちょうバレーカップ	5/2~5	らいちょうバレースキー場	XC	20,000円	4/20
PS	〒125-0031 東京都葛飾区西水元6-22-15 立山らいちょうバレーカップ実行委員会 TEL.03-3608-8626					
公認	99 立山らいちょうバレーカップinサマー	7/31・8/1	らいちょうバレースキー場	XC	10,000円	7/19
PS	〒125-0031 東京都葛飾区西水元6-22-15 立山らいちょうバレーカップ実行委員会 TEL.03-3608-8626					
公認	99 高山ホルンバレーカップ	8/28・29	高山ホルンバレー	XC	15,000円	8/17
PS	〒125-0031 東京都葛飾区西水元6-22-15 高山大会実行委員会 TEL.03-3608-8626					
公認	99 Coo フルーツカップ	10/9~11	エアーパークCoo	XC	20,000円	9/30
PS	〒315-0157 茨城県新治郡八郷町上曾1698-1 エアーパークCoo 大会実行委員会 TEL.0299-44-1408					



公認	第3回日本学生ハンググライディング選手権	3/8~12	茨城県足尾山エリア	P・学生	12,000円	2/10
	〒285-0831 千葉県佐倉市染井野5-46-11 TEL.043-462-0764					
公認	98 ハンググライディング日本選手権 in 広島	3/21~27	広島県神ノ倉山周辺	XC	20,000円	2/20
PS	〒731-5111 広島市佐伯区美鈴が丘東2-2-13 崎山和弘 TEL.090-3178-1423					

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

12月臨時理事会

1998年12月17日(木)13時30分～17時 東京都港区板橋、ニュー新橋ビル11階会議室
出席：渡邊敏久、川添喜郎、鈴木康之、朝日和博、岩間雅彦、小林朋子、松田保子各理事、宮川雅博、坂本三津也各監事 欠席：星野納、関谷暢人各理事 議長：岩間雅彦理事
航空スポーツ連絡会の報告

川添副会長より、12月11日のJAA航空スポーツ連絡会について報告あり。連絡会を年に4回開催してほしい、NACに代わる会にしてほしい、等の意見が出されたとのこと。

選挙日程について

総務局より、役員選挙の日程について報告あり。1月11日に公示。投票は3月17日。

3月総会について

事務局より、1998年度JHF3月総会が3月17日(水)に決まったと報告あり。

HGポイントシステムについて

HG競技委員会担当の小林理事より、99年のHGポイントシステム登録が始まったと報告あり。

教員検定について

教習検定委員会担当の関谷理事より、98年度教員研修検定会終了の報告。飛行実技、教習実技、学科のすべてに合格したのは、HG1名、PG20名。教習実技の演習を中心に行った研修が好評で、現教員対象に同様の研修会を開いてほしいという意見が出されたとのこと。

郵政省補助金について

川添副会長より報告。スカイレジャー専用無線機購入に関する作業が難行しているため、郵政省からの「お年玉付年賀葉書寄付金」の交付を99年3月末まで遅らせてもらったとのこと。

1999年度JHF事業方針(案)につき審議

99年度事業方針の前置きとして

98年度は少ない予算の中で、各事業それぞれの成果を上げた。賛成6、反対0

98年度申請料収入を前年度比マイナス14%と見る。賛成6、反対0

99年度予算規模の設定を、97年度予算対比マイナス30%とするのが妥当。賛成5、棄権1

99年度事業方針として

予算緊縮にせざるを得ないが、管理費は必要最低限を確保する。賛成6

会員制度発足を最重要事業とする。賛成6

a案：上記 以外の事業は予算を一律削減に賛成2、b&c案： 以外の事業に

優先順位をつけ展開に賛成4で、b&c案を可決。

有効登録者数の回復策と新規会員の拡大策を講じる。賛成6

正会員補助休止のほか各種補助金の削減または休止を行う。賛成6

1999年度JHF事業計画(案)につき審議
総務局から出された99年度事業計画の各事業に優先順位をつけた。その優先度の比を、A：前年比100%、B：75%、C：50%、D：25%、E：0%とし、それに基づき、財務担当の朝日理事が具体的予算案を作成することに決定した。

1999年度JHF予算(案)について

前項のとおり、朝日理事が予算案を作成し、後日文書理事会で審議することにした。

PGルールブック変更について

PG競技委員会から出された「パラグライディングジャパンリーグ規定」「国際大会への日本チーム選考方法」「パラグライダー日本選手権規定」の各案について、各自持ち帰り検討し、異議のある場合は12月22日までに小林理事に意見を提出することになった。異議が出なければ承認されたものとする。

1999年度PG日本選手権開催地について
PG競技委員会から上程された、新潟県(案)について、賛成6、反対0で可決。

1999年CIVL出席者について

海外局担当の小林理事より案が出され、デリゲート小林朋子理事、オブザーバー小林誠司氏の出席を、賛成5、反対1で承認。

選挙管理委員の補充について

選挙管理委員会が、新たな委員として内田孝也氏を推薦。賛成5で承認。

SPSルールについて

スポーツパラグライダーシリーズのルールブックへの意見を小林理事に提出する。

FAI表彰候補者推薦について

JAAから、FAI表彰候補者推薦の依頼があり、各自検討することにした。

1月理事会

1999年1月20日(水)13時30分～17時 東京都港区立生涯学習センター202学習室
出席：川添喜郎、鈴木康之、朝日和博、岩間雅彦、星野納、関谷暢人、小林朋子、松田保子各理事、坂本三津也監事 欠席：渡邊敏久理事、宮川雅博監事 議長：小林朋子理事

パイロット技能証交付の実績について
文部省スポーツ関係団体連絡者会議出席のために理事会欠席の渡邊会長にかわり、渡邊会長作成のHG&PGパイロット証交付

実績資料について朝日理事より報告あり。練習生数についてのデータも欲しいという意見が出された。

1999年度JHF事業計画について

12月17日理事会の結果に基づき総務局が作成した99年度事業計画案が提出された。

ポイントシステム登録について

小林理事より、HGとPGのポイントシステム等への99年登録状況の報告あり。

HG教本について

関谷理事より、教習検定委員会がHG教本を作る準備をしていると報告。USHGAのテキストを翻訳することも検討中。

1999年度JHF予算(案)について

12月17日理事会で、文書理事会で検討することになった99年度予算案は、12月28日に、賛成6、反対1、棄権1で承認された。

PG世界選手権の日本代表選手について
PG競技委員会が選考した8名の選手を賛成7で承認。

HG世界選手権の日本代表選手について
HG競技委員会が選考した6名の選手を賛成7で承認。

FAI表彰候補者の推薦について

朝日理事より3名の推薦案が出されたが、審議の結果、ポールティサンディエ賞候補として小川隆久氏を、エア・スポーツ・メダル候補として市田博久氏を推薦することを、賛成7で可決(協議から審議事項へ)、JHF会員規約(案)等について

川添副会長から提出されたJHFの会員規約、正会員規定、フライヤー会員規定、会員会費規定の各案について協議し、修正意見等が出された。また、宮川監事、今井顧問弁護士に内容の確認をしてもらい、意見を聞くことにした。

CIVL総会での日本の意見について

海外局担当の小林理事から、1999年3月に開催されるCIVL総会で、議案等にあがると思われる件について、日本代表としてどのような意見を主張するか、理事会に相談したいと要望あり。「大陸選手権を廃止して世界選手権を毎年開いてはどうか」というスイスの提案と、HG競技会の安全に関するドイツ・オーストリアの検討グループからの提案(資料あり)について。

JHFレポートの第三種郵便物認可申請について

広報出版局から、JHFレポートの第三種郵便物認可申請に向けてのスケジュール案が出された。2000年1月からフライヤー会員制度をスタートし、レポートを各会員に送付する予定なので、早急な準備が必要。

検定会開催予定(1999年1月25日現在)

PGNP：パラ・ノービスパイロット学科 PGP：パラ・パイロット学科 HGP：ハング・パイロット学科
XC：パラ&ハング・クロスカントリー学科 PW：パラ&ハング・補助動力学科

開催日	開催時間	開催地	開催場所	定員					主催者	主催者 電話番号	検定員
				PGNP	PGP	HGP	XC	PW			
1999/3/14(日)	9:00～17:00	三重県津市一田町	三重県総合文化センター	30	30	20			三重県連盟	0598-51-4084	鈴木 博司
1999/3/28(日)	9:00～12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196	井藤 志暢

副会長 川添 喜郎

JHF 役員選挙が近づきました。現理事会には若い理事も加わり、フレッシュな意見と努力で活気づきました。しかし各自の努力や意見が理事会(経営者)を通して正常に機能をしない面もあり、また、正当な評価をされない面もありました。各担当の職務に努力した理事とそうでない理事との差もかなりありました。そんな意味で、私からみた理事会の評価は68点。

私自身の自己評価は55点。理由は、全体をコンダクトする立場でありながら全うできなかった事、理念や経営感覚のちがいもあり会長を完全に補佐できなかったからです。懸命に泥かぶりの努力をしても結果が出せなければ評価は得られないと反省しています。

今、JHF 総合改革を進めています。どんなに制度や規定を整備しても、そこにたずさわらぬ人間が正常な機能を果たさなければ、改革は進まない事を痛感しています。

今回の選挙で、全ての理事に、JHF の経営者として実行力と責任感のある方々が選出される事を願っています。

常任理事 事務局長 朝日 和博

寒い冬、外に出るのがついつい億劫になってしまいます。先日思い切って飛びに行きました。空気は冷たく肌身にしみるが、すばらしい青空と明るい太陽が大変気持ちよかったです。JHF って何の為にあるのかと、時々思いますが、やはり飛びたいときにいつでも飛べることがJHF の最大の意義で基本であると思いました。まもなく98年度が終わり、新年度が始まります。たくさんの方の事をフライヤーの皆さんに報告し、そして新年度の提案をしなければなりません。これからも理事は忙しくなるぞ。特に来年度は予算面でとって厳しくなります。そんなときにこそJHF のあるべき姿をみんなで考えてみたいと思います。

常任理事 岩間 雅彦

3月の総会でJHF の1999年度の予算が決まりますが、1998年はパラフライヤーが大幅に減少してしまいました。当然の結果として、1999年度は緊縮財政にならざるを得ません。各種の補助金の減額はもちろん、JHF 事務局のリストラも避けられません。しかし、本心を言えばJHF のようなスポー

ツ団体はお金がないのが当たり前で、今までがむしろ恵まれていたのだと思います。現在の厳しい状況は、組織の贅肉を削ぎ落とす一方で、フライヤーのための情報サービス(これは余りコストがかからない)を充実させる好機ではないでしょうか。

理事 関谷 暢人

昨今「ハング・パラグライダー人口は何人ぐらいですか?」という質問に、「9万人で、体験者は30~50万人です。」と答えている書籍記事が見受けられる。しかし、9万人とはJAA フライヤー登録累計数であり、実際、ある程度アクティブに愛好しているフライヤー(いわゆる有効登録数)は、ここ数年減少しつつあり昨年度には2万6千人になってしまった。これまでの約6万人強は何かしらの理由で止めてしまっている。そして、時々、「JHF はフライヤーのための組織である」と聞かれますが、そうだとすれば、自分で自分の組織を縮小させているようなものではないだろうか?

世間では、民間団体や企業に限らず、行政までもが「構造改革 リストラクチャー」を行い次世代へ対策をこうじている。

今、2000年を目前としている。次世代に向けてJHF がしなければならぬことは何であろうか? 「組織改革」「安全普及活動」「フライヤー救済活動」等々、課題は沢山あるが、事業体が基本的に有する「長期的な計画と検証そして対策」を行える基盤作りが必要だと思う。

この春で理事会改選が行われるが、新任理事の方に考えてもらいたい。「次世代のJHF のあり方」を。

理事 小林 朋子

CIVL 総会まであと1ヶ月余りとなり、準備を進めています。総会で議題や話題にあがると思われる件について、関係している委員会や担当者に相談をしています。事前にご相談することで、周囲の方々にCIVL に対する興味と理解を一層深めてもらいたいし、現地で日本の意見をきちんと主張できるようにしたいです。今後はCIVL の活動を一般のフライヤーの皆さんにどうやって伝え、役立ててもらおうかが課題だと思っています。

年末年始にかけて丹沢で開催されたハンググライダー競技会を見学しました。

ポイントの対象になる今シーズン最初の大会でした。お天気に恵まれて素晴らしい大会だったと思います。新シーズンを迎え、意欲に燃える選手達の姿が印象的でした。

理事 松田 保子

来年1月、JHF フライヤー(普通会員)制度がスタートする予定です。会員の皆さんひとりひとりにJHF レポートをお送りするための準備を「時間がない!」と焦りつつ進めているところ。最初のうちは、予算等の都合で、立派な体裁のレポートは出せないと思いますが、まずは各会員に直接送付すること、必要な情報は正確にできるだけ早く伝えること、誰でもわかりやすい内容にすることから。読者の皆さんには不満な点だらけですが、あったかい目で見守ってください。お願いします。

もうすぐ役員改選。2年前に理事になった時には、2年間の任期を長く感じたけれど、実際はアツという間でした。いろいろ教えてくださった方々、応援して下さった皆さんに、ひたすら感謝しています。今後も、ハング・パラグライディングを楽しく続けていくために、このスポーツを理解してもらうために、それぞれができることを、どんなに小さなことでもいいから積み重ねていきましょう。

訃報

ファルホーク(株)元取締役社長の小川隆久氏が、2月3日、逝去されました。享年65歳。

小川氏は、1975年に日本で初めてハンググライダー講習会を開き、その後も各地でスクーリングを行う、エリアを開発するなど普及のために尽力され、また、ハンググライダーメーカーとして、機材の品質・性能の向上に大いに寄与されました。後にパラグライダーの開発製造も始め、さらに積極的にハング・パラグライダー振興に努力されました。

その業績により、国際航空連盟のポールティサンディエ賞候補として、JHF 理事会は小川氏の推薦を決定したばかりでした。

ご冥福をお祈りします。

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

ハン グ グ ラ イ デ ィ ン グ	P 証		P 証	P 証	
	4,740	17,474		NP 証	7,794
	C 証	6,671	補助動力 NP 証	58	
	B 証	11,203	B 証	38,329	
	A 証	10,618	補助動力 B 証	120	
	補助動力証	22	A 証	41,180	
	XC 証	1,037	補助動力 A 証	144	
			補助動力証	864	
			XC 証	3,231	

JHF レポート 3月号 (No.146)

発行日 1999年2月20日
 発行 (社)日本ハンググライダー連盟
 〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F
 TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局
 印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。